

戦前日本の植民地統治を学ぶ

土浦日本大学高等学校 栗林 幸雄

1. 実施学年及び教科・領域

高等学校2年生 地歴公民科 日本史探究・世界史探究 1クラス（27名）

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

（1）単元名 近現代の地域・日本と世界

（2）ねらい

①学習指導要領との関連

本単元は、高等学校学習指導要領地理歴史科編「日本史探究」「D 近現代の地域・日本と世界」「3 近現代の地域・日本と世界の画期と構造」及び「世界史探究」の大項目「D 諸地域の統合・変容」「第二次世界大戦と諸地域の変容」において、恐慌と国際関係、軍部・ファシズムの台頭と対外政策の知識を身に付けさせるとともに、思考力、判断力、表現力等として、戦前日本の植民地統治の確立と展開という主題を設定し、海外領土の獲得とともに、人の移動や交通手段が拡大する過程を考察し、日本と近隣諸国との関係にどのような影響を及ぼしたのかを考察させることを目指した。

②単元の目標

- I 戦前日本の植民地成立過程を理解する
- II 植民地統治を通じて、日本人がどのように移動したかを理解する
- III 戦争ポスターを分析し、戦争目的と大衆動員の関係を考える

（3）博物館との関連

①活用方法

「来館型活用」と「非来館型活用」の併用

②活用資料

貸出教材「戦争ポスター」

②活用資料 貸出教材「戦争ポスター」

①



「陸軍少年戦車兵・通信兵・砲兵生徒募集」

②



「国民体力法被管理者調」

③



「祝へシンガポール陥落を！」

武装臺灣

徴兵令下る

光榮の九月一日

加はつた

今や六百万の本島同胞が新しい職業として愛国と皇軍の戦列に加はつた

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
事前学習	1 時間	戦争関係ポスターを見て、内容を読みとく	裏面にある解説は読まずに、思ったことを率直に述べる
校外実習	3 時間	第 6 展示室での授業 自由見学 ポスターに英語でキャプションをつける	日清戦争から太平洋戦争までの 50 年間を歩むことを意識させる 事前学習と関連付ける プロパガンダの効果を学ぶ
事後学習	1 時間	レポートを作成する	博物館で見学したことと、新たに学んだことをまとめさせる

4. 実践の概要

(1) 事前学習

日本と満州のつながりを知る

- ・ポーツマス条約…南満州鉄道の敷設権を日本が獲得
- ・満蒙開拓…1930年代以降、30万人以上の日本人が国策として満洲へ移民した
- ・ソ連の対日参戦…1945年8月9日、引き揚げ途中の日本人8万人以上が犠牲
- ・「満蒙は日本の生命線」…日本にとり満洲が不可欠の土地だったのはなぜか？
- ・茨城の戦後開拓地…引き揚げ後の開拓者が再入植

プロパガンダ・ポスターの役割を学ぶ

- ・満州に人を駆り立てたものは何か？
- ・戦闘意欲をかき立てたものは何か？
- ・戦時の国民生活にどのような影響を与えたか？

(2) 展示室での授業

日清・日露戦争から太平洋戦争に至る日本の領土拡大について学ぶ

① 日本と満州との交通路開設

南満州鉄道の設立を機として、鉄道と汽船による交通路の整備が進んだことを学ぶ
満州移民が国策として遂行された

「北鮮新潟航路新造船就航」(コレクション名) 戦争関係ポスター(資料番号) H-966-22

夏目漱石は、1909(明治42)年に著した「満韓ところどころ」という随想において、満鉄総裁の招きで満州へ渡航したことを記している。漱石は、神戸から船で大連に渡り、南満州鉄道で満州を旅した。神戸と大連を結ぶ航路は、1905年1月14日に、大阪商船が開設した航路である。日露戦争後、大連と長崎・大阪を結ぶ航路が開設されたが、日本海側の港の間を結ぶ航路が開かれた例は、明治時代にはみられない⁽¹⁾。昭和時代になると、日本海側から朝鮮半島を結ぶ航路がいくつか開設され、満州や朝鮮に渡航する日本人の数は増加した。

② 兵営での訓練

各地から集められた兵士は、どのような訓練が行われたかを見学した。まず目に入るのが、豊かな食事である。山盛りの白米にカツなどの洋食が並べられている。たくさん食べて体を作るのが兵士の仕事であることを学ぶとともに、軍隊では兵士が白米を食べるという共通の経験をする。日本全国で白米を食べるという共通の文化ができるのは、兵営でのこうした経験からである。日本人は白米を食べることが、必ずしも「伝統」文化とは言えないことも学んだ。

③ プロパガンダ・ポスター

第6展示室「戦争と平和」の後半に入ると、第二次世界大戦が近づき、プロパガンダポスターが並ぶスペースに移っていった。それらの展示を通じて、戦争目的と大衆動員の関係を学ぶことができる。戦死者の顕彰や士気の高揚を図るとともに、資金の調達や大衆動員を図る意図を読み取ることを目的とした。事前学習についても触れ、実際に資料を見て

読むことが如何に重要かを指摘した。

「護れ興亜の兵の家（銃後奉公強化運動）」

国立歴史民俗博物館所蔵（コレクション名）戦争関係ポスター（資料番号）H-966-65



第 6 展示室に展示されているこのポスターは、大衆動員を促すプロパガンダポスターの中で重要な教材である。プロパガンダポスターは、デザイナーのコンペが行われ、彼ら（彼女ら）の登竜門であった。本来は最優秀作が採用されるのであるが、本作品は二等でありながら採用された珍しいポスターである⁽²⁾。

（３）事後学習

見学終了後、ガイダンスルームに再集合し、以下の 3 点に対する質問を行い、解答をまとめる作業を行った。

Q1 日本から満州への移民はどのように海を渡ったか？

大まかな問いであったにも関わらず、展示室での見学を踏まえて、回答を考えた生徒がおり、それらをいくつか紹介したい。

日本の商船を利用して、港から港へと移動。主要な出発港としては、横浜や神戸などがありました。また特定の移民を目的とした船も運航されていてこれらの船は移民を満州の主要な港（例えば、大連や旅順）へ運んだ。満州に到着した後は、鉄道を利用して内陸へ移動することが一般的で、満州には日本が整備した鉄道網があり、移民はそれを利用して目的地に向かった。

新潟から船舶を使って移動した

船を使い、海を渡った。この移動は 20 世紀初頭から 1930 年代にかけて行われた。

新潟などの主要港から船がたくさん出ていた。

移民たちは日本の港から船にのり、日本海を超えて大連や旅順などにつき、その後は村で農業などをして過ごした

主に、港町から出発するフェリーや貨物船が利用され、定期航路を利用して渡航した。
日本の港から船で満州に渡り、そこから列車で開拓地へ向かった
農村の立て直しや、ソ連との国境防衛の強化という国策のもと、全国各地から多くの若者が「開拓団」として送られた

Q2 日本人にとって満州とはどのような土地であったか？

「日本人にとって」という限定が必要だったかは課題として残るが、世界恐慌や満州事変という歴史的事件が、日露戦争以来の日本の植民地統治と密接不可分であることを理解させることができた。

農村の土地不足、急な人口増加を解決するための土地。
豊かな自然資源を持っていたため、経済的な機会や新しい生活の場として重要視された土地であった。

満州は日本にとって「資源供給地」「防衛の前線」「経済開発の重要な拠点」として、さまざまな用途で重要な拠点となった

重化学工業の発展に欠かせない鉄などの豊富な資源があり、人口が増えてきていた増えてきていた日本には絶好の移住地だった

土地を不法に買い取ったり、日本から移民を送って農業を始めさせたりなど、満州は日本にとって植民地のような存在であった。

当時発展しつつあった重化学工業の資源となる鉄を確保するために重視されていた。

世界恐慌のような経済難に苦しんでいた日本農村における土地不足・過剰人口を解決した重要な土地

鉱山資源や鉄道網をはじめとしたインフラなどによって新しい生活を始める起点になった場所。

満州は日本人にとって経済的、文化的、戦略的に重要な土地であった。例えば、満州では農地の開発や工業化が進められたため、多くの日本人が移住し、経済活動を行った。

日本人にとって資源が豊富で新しい生活を築ける「理想の土地」と宣伝されましたが、実際は厳しい自然環境で開拓が危ない場所であった

日本の総力戦準備のための軍需資源の供給地とし、対ソ戦に備えた戦略基地

Q3 日本人を中国へ誘ったプロパガンダポスターの役割は何か？

日本国民に日本のために命をかけたり生活の工夫をすることを促すこと

民に頑張ってる兵士を支える家族を作ろう！という気持ちを伝えるため。

戦争に協力してもらうために戦闘の様子をポスターに描いたり、綺麗な女の人の絵を描いたりした

日本国民全員を戦争に協力させる役割があった。

お金をかけて色をつけて、目立たせてたくさんの人の心に刺さり、戦士を集めることや女性の在り方を広めるため。

理想郷としての満州を描き、当時少なかった満州移民の数を増やすため

プロパガンダポスターは、日本人の満州への移住を促進させた。満州に行けば、豊かな土地があったり、仕事を得ることができたりするような内容を伝えて、満州への移住がよいことに見えるように広めた。

ポスターを使い、見るものが反射的に感じる好意や信頼を生む役割を果たしていた。

戦争のスローガンや、物資の調達促進、軍人の募集、女性への考え方などを広い範囲で伝え、国民の戦争への意欲の向上を図る役割。

移民の動機づけ、国家政策の正当化、「五族協和」などの理念の普及
世論を操作すること

日本人の満州への移住を促進した。例えば、豊かな土地や経済的な機会を強調し、移民を奨励する内容が多く見られた。

日本人を移民に誘導する役割。国策への支持を広げる目的もあった

アジア人は全員仲間であり共に欧米を倒そうと奮い立たせる役割

兵士の募集や女性の役割などを示し、資金の調達や満州移民という国策遂行に資するためにプロパガンダポスターが必要とされたことは理解された。プロパガンダ（政治宣伝）の意味についても、「見るものが反射的に感じる好意や信頼を生む役割を果たしていた」という記録から、十分に理解されたように思われる。

5. 成果と課題

プロパガンダが「政治宣伝」の意味であることは、概ね理解されたように思われる。「大東亜共栄圏」や「五族協和」という当時のスローガンと結び付けて、これらのポスターを読み解くことができた。プロパガンダとは、為政者の側から一方的に発信されたのではなく、大衆の側にも植民地や戦争を肯定する土壌があったことで成立する。生徒の考察からはその点を指摘したものも見られた。

戦争ポスターを学ぶにあたっては、A4サイズの教材を使うことも大事であるが、大きさや色あいなど、実際に博物館でポスターを見るに勝るものはない。博物館で体験する意味を考えさせたい。

満州移民と中国人・朝鮮人との間で生じた摩擦や対立などを考察し、日本と満州の二者関係をとらえることが重要である。さらに、アメリカや中華民国を含む多国間関係の中で、満州をめぐる紛争をとらえる視点も必要である。1930年代の満州の全体像をとらえる工夫を課題としたい。

展示室の見学を通じて、日清戦争後に日本と植民地との人の往来が盛んになり、植民地支配が既成事実化することを理解させたい。また、大東亜共栄圏構想が、資源獲得を狙いとしたことは、満州・朝鮮という植民地支配の意図と軌を一にすることを指摘すべきであった。以上のように、多くの課題を残したと思うが、今後の改善に努めていきたい。

注

- (1) アジア歴史資料センター「公文書にみる明治日本のアジア関与」「定期航路を見る」

<https://www.jacar.go.jp/glossary/meijiasia/routes/index.html>

- (2) 田島奈都子『プロパガンダ・ポスターにみる日本の戦争』勉誠出版、2016年、49頁。

国立歴史民俗博物館事前学習

氏名

1 概要

日時 2024 年 12 月 13 日（金）11:30～15:30

見学のねらい

戦前日本の植民地形成過程を学ぶ

満蒙開拓の歴史を通じて、日本と満州の間における人の移動を学ぶ

戦争ポスターを読み、プロパガンダの手法を学ぶ

持ち物 昼食・筆記用具（iPad 含む）

2 行程

A 班		B 班	
11:30	到着	11:30	到着
11:30-12:30	昼食	11:30-12:30	昼食
12:30-12:40	ガイダンス	12:30-12:40	ガイダンス
12:50-13:30	第 6 展示室見学	12:50-13:50	自由見学
13:40-14:40	自由見学	14:00-14:40	第 6 展示室見学
14:50-15:20	振り返り（ガイダンスルーム）	14:50-15:20	振り返り（ガイダンスルーム）

3 見学内容

3-1 第 6 展示室にて授業・見学

日清・日露戦争から太平洋戦争に至る日本の領土拡大について学ぶ

満蒙開拓の歴史を学び、日本の植民地統治下における人の移動と展開を学ぶ

3-2 自由見学（企画展示見学）

① 歴史・文化のなかの鄭成功（第 3 展示室）

17 世紀の東シナ海にまたがる貿易集団のリーダーの子として生まれ、台湾を拠点に一大勢力を築いた人物と時代を展示

② 民俗（第 4 展示室）

民俗（FOLKLORE）とは、衣食住・生業・信仰・年中行事等に関する風俗慣習・民俗芸能・民族技術及びこれらに用いられる衣服・器具・家屋その他の物件など人々が日常生活のなかで生み出し、継承してきた有形・無形の伝承（文化庁 HP）

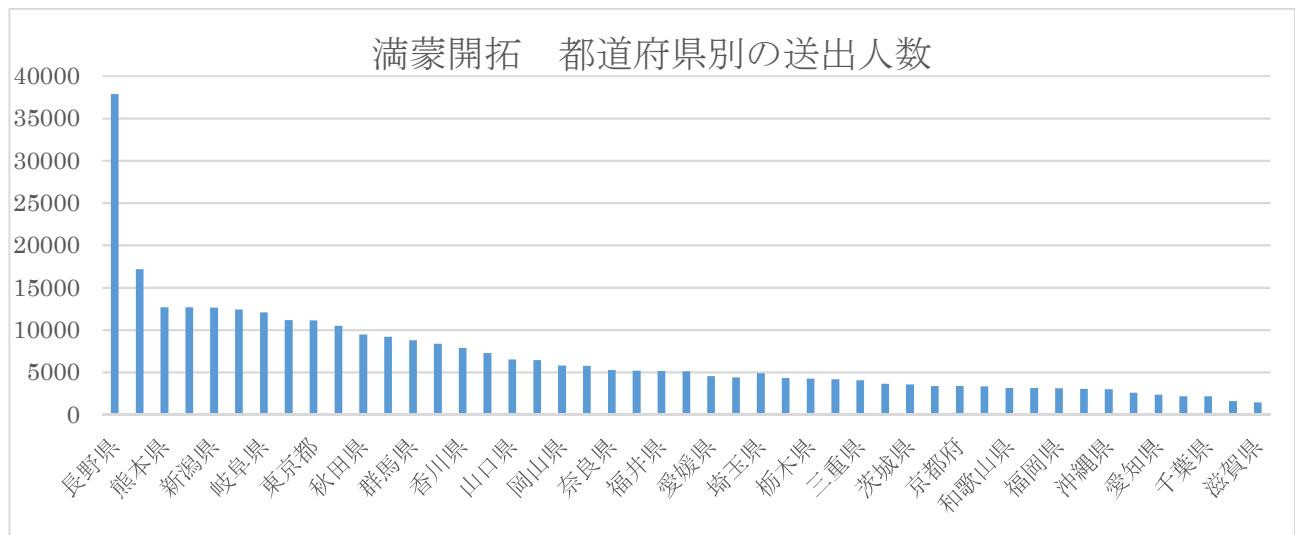
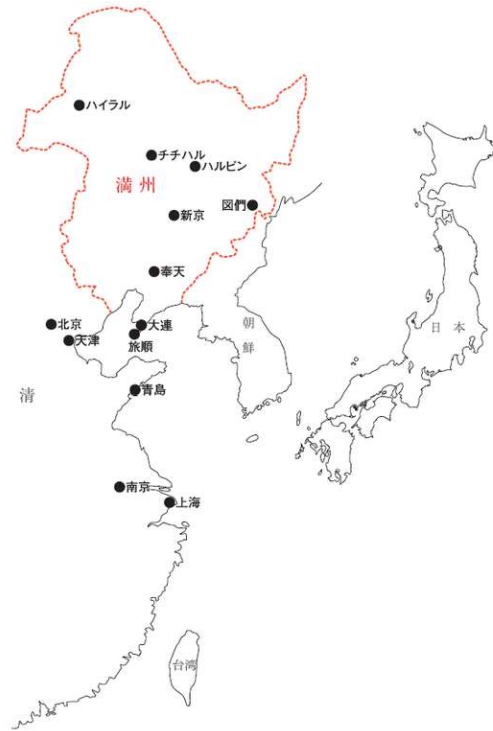
4 メンバー

班	氏名
A 班	生徒氏名は割愛した
B 班	生徒氏名は割愛した

課題 1 満蒙開拓の歴史

満蒙開拓とは？

1936 年，広田弘毅内閣「満州農業移民 100 万戸移住計画」決定
日本の 3 倍の国土に，人口の 1 割を日本人が占めるねらいで実施



茨城と満蒙開拓

青少年義勇軍訓練所（水戸・内原）



茨城の戦後開拓地（土浦・つくば・守谷）

長野県（送出1位）や山形県（送出2位）から茨城へ再移住

土浦と戦後開拓

右舩地区にあった授産施設が紹介されている。都和地区にも長野県出身者が入植した。
『土浦 戦争の記憶マップ』



つくばと戦後開拓

旧西筑波陸軍飛行場（つくば市作谷地区）



1940年、つくば市北西部作谷地区に開設。落下傘部隊や特攻隊基地として使用。
戦後、長野県から開拓団が入植した

つくば市『戦争とつくばの飛行場』

守谷と戦後開拓

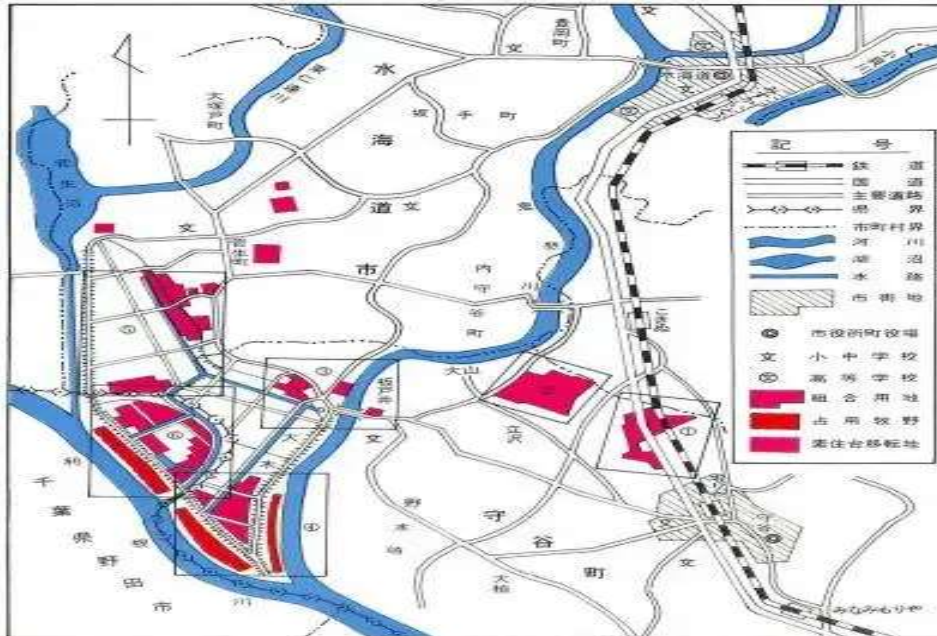
山形県出身者が引き揚げ後に入植

菅生沼地区…利根川と鬼怒川の間の常習水害地

大井沢地区…水が少ない干ばつ地域

2. 水海道市・守谷町部分略図

〔大八洲開拓農業協同組合用地位置表示〕



日本と満洲の関係

1906年 ポーツマス条約で南満州鉄道の敷設権を獲得

長春以南の鉄道敷設権と周辺の鉄鉱石・石炭を獲得

1910年 韓国併合

朝鮮を経由して満州に行くことが可能になる

1931年 満州事変

満州全土を日本が支配し、満州国を建国

1931年 満蒙開拓を国策として決定

1941年 アジア太平洋戦争勃発

1945年8月9日 ソ連の対日参戦

調べてみよう

日本人にとって「満州」のイメージはどのようなものだったか？

課題 2 プロパガンダポスターを読む

- ① 「陸軍少年戦車兵・通信兵・砲兵生徒募集」(No.5)
- ② 「国民体力法被管理者調」(No.7)
- ③ 「祝えシンガポール陥落を！ 買え戦時貯蓄報国債権を！」(No.8)
- ④ 「節米一割」(No.20)
- ⑤ 「武装台湾」(No.18) 昭和 19 年か
- ⑥ 「今こそ援護も決戦調」(No.21)
- ⑦ 「興亜の晴衣国民服」(No.13)

宿題 以下の語句の意味を調べておく。

- 1 武運長久
- 2 撃ちてし止まむ

歴史民俗博物館 校外研修ワークシート

GS2 年 1 組 番

氏名

歴博（れきはく）巡り

課題 以下の展示から 1 つ選んで，展示内容をまとめよう

① 歴史・文化のなかの鄭成功（第 3 展示室）

17 世紀の東シナ海にまたがる貿易集団のリーダーの子として生まれ，台湾を拠点に一大勢力を築いた人物と時代を展示

② 民俗（第 4 展示室）

民俗（FOLKLORE）とは，衣食住・生業・信仰・年中行事等に関する風俗慣習・民俗芸能・民族技術及びこれらに用いられる衣服・器具・家屋その他の物件など人々が日常生活のなかで生み出し，継承してきた有形・無形の伝承（文化庁 HP）

レポート

選択した課題

展示内容

第6展示室研修レポート

以下の点について、調べたことや考えたことをまとめなさい

- ・ 日本から満州への移民はどのように海を渡ったか？
- ・ 日本人にとって満州とはどのような土地であったか？
- ・ 日本人を中国に誘ったプロパガンダポスターの役割は何か？